日ごろの近所付き合いが身を守る!!
育てよう地域の力「自主防災組織」

地区内の『共助』という意識を高めていきたい

沢田区自主防災・防犯会

沢田地区の大きな特徴は、区域内に泉野小学校と西入間広域消防組合消防署があることだ。このことについて、沢田区自主防災・防犯会の関谷会長は「泉野小学校があることで、住民にとって子どもたちの安全を守ろうという意識は強いと思います。下校時の見守りでも多くの人に参加してもらっていますし、併せて地区内の公園も見回るようにしています。また、消防署があることは、地域の安心感につながっていると思いますが、皆さんの甘えはないと思います。昨年は、災害を想定して日本赤十字社毛呂山赤十字奉仕団による炊出訓練も実施しました」という。

また今後の、自主防災・防犯会の課題を「引き継ぎと要援護者の把握」と関谷会長は話す。他地区にも共通の課題であるだろうが、沢田地区では組織の会長が1年交代のため、毎年、命令系統が変わることに少し不安を感じているそうだ。しかしこれからは、防災・防犯会の役員経験者などに協力をしてもらうことで、命令系統を画一的なものにしていきたいと考えているそうである。また、要援護者の把握についても、町との連携をこれまで以上に緊密化し、対策を喫緊（きっきん）に進めていく予定だという。

「今後は、日ごろの啓発活動に力を注ぎ、常に一人ひとりが近所を意識し、横のつながりを強くしていくことで、沢田区の『共助』意識を高めていきたい」と関谷会長は語ってくれた。

要援護者問題も議題になった沢田地区でのタウンミーティングの様子

毛呂山歴史散歩

第249回

毛呂山合併ヒストリー ～巻の2～

明治22（1889）年の町村制の施行により、毛呂村、川角村、瀧野入村の3か村が誕生しました。

ところが、瀧野入村では、村名をめぐって大きな問題が起こりました。瀧野入村は、旧瀧野入村、阿諏訪村、大谷木村、宿谷村、権現堂村、葛貫村の6か村の対等な合併で誕生しました。しかし、旧瀧野入村の村名がそのまま新村名となったことに対して、旧5か村から不満が噴出しました。

新村名は、「瀧野入」の名称を用いるのでなく、6か村に縁（ゆかり）のある名称にするべきという意見が根強く残っていました。

この問題に対して、瀧野入村長は協議の場を設け、明治22年10月1日に、臨時議会を招集しました。臨時議会での決議により、県知事宛に村名改称の請願書を提出するに至りました。請願書の内容は、「旧瀧野入村が戸数や納税額において決して優位でなく、あくまで6か村は対等であること」を強調して記されていました。また、「瀧野入村の名称を使うことは、旧5か村が瀧野入村に吸収合併されたような印象があり、村民の心が穏やかではない」とも記されていました。

改称後の村名については、合併した6か村が、昔から「山根六ヶ村」と呼ばれていたことから新村名には「山根」を用いたいと願い出ています。明治22年に村名改称の請願書を提出した後の詳細については不明ですが、明治24（1891）年8月20日付で、村名が山根村と改称されることになりました。

平成の大合併でも新名称が全国各地で話題になりましたが、120年以上前の毛呂山でも同じようなことが起こっていました。村名を巡っての地域住民の思いは、ふるさと意識の現れなのかもしれません。